

## 重点改革項目Ⅲ 持続可能な財政運営の確立

取組項目(中項目)	3 地方公営企業などの経営改革	No.	59③
具体的な取組項目(小項目)	4 その他特別会計の経営改革の取組強化	担当課	財務課
改革実施項目名称(細項目)	公債管理事業 ・効率的な運営による収支の均衡回復		
現状と課題 (これまでの取組み)	借入時期の見直しや見積合わせの競争性を高める取組みなどにより、低利での借入に努めているが、臨時財政対策債や合併特例債が増加し、今後もしばらくの間、公債費の増加が見込まれる。そのため、より低利での借入を行い、償還利子の縮減に努めるとともに、臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスが収支均衡するよう、市債発行を抑制し、将来の償還元金を縮減することで、公債費の縮減を図る必要がある。		
事業の目標・目的 (考えられる効果)	≪計画期間の目標≫ ・適切な金利での資金調達を行い、償還利子を縮減する。 ・臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスについて、平成28年度から収支均衡するよう、市債発行を抑制し、将来の償還元金を縮減する。		
	≪事業の最終目標≫ 償還利子の縮減や市債発行の抑制により、一般会計からの繰入額の縮減を図る。		
取組の内容	・金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を行うことで償還利子の縮減を図る。 ・臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスについて、平成28年度から収支均衡するよう、市債発行を抑制し、将来の償還元金を縮減する。		

改革実施概要	取組工程 (具体的な内容)	現状 (平成26年度)	平成27年度		平成28年度		中間目標/ 29年度以降
			計画	実績	計画	実績	
		・金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を実施	・金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を実施 ・平成28年度からの臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスの収支均衡を考慮して、市債発行を抑制し、将来の償還元金を縮減する	・金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を実施した。 ・市債発行額は、財政予測計画の範囲内に抑制した。	・金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を実施 ・臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスが収支均衡するよう、市債発行を抑制し、将来の償還元金を縮減する	・金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を実施した。 ・市債発行額は、財政予測計画の範囲内に抑制した。	・金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を実施 ・臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスが収支均衡するよう、市債発行を抑制し、将来の償還元金を縮減する
指標							

進捗管理	(各年度10月に実施)		平成27年度		平成28年度		※平成29年度上半期に計画期間の中間評価を実施する。
	取組の状況	上半期 (4～9月)	予定通り 進捗	予定通り 進捗			
			・最適な年限、金額を検討 ・見積合わせの結果、低利での借入を実施		・最適な年限、金額を検討 ・見積合わせの結果、低利での借入を実施		

年度評価	(年度終了後に実施)		平成27年度		平成28年度	
	取組工程、指標に対する評価			B		B
			・適切な金利での資金調達を行い、市債発行を抑制した結果、将来の公債費の縮減が図られた。		・適切な金利での資金調達を行い、市債発行を抑制した結果、将来の公債費の縮減が図られた。	
	課題、今後の方針、改善事項など		財政目標達成に向けて、引き続き市債発行の抑制と公債費の縮減を図る。		財政目標達成に向けて、引き続き市債発行の抑制と公債費の縮減を図る。	

計画期間の中間評価	(平成29年度に実施)		中間評価		平成29年度以降
	取組工程、指標に対する評価 (指標の適正性等)			B	引き続き金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を実施するほか、市債発行を抑制する。
			適切な金利での資金調達を行い、市債発行を抑制した結果、将来の公債費の縮減が図られた。		
	課題、今後の方針、改善事項など		引き続き金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を行うことで償還利子の縮減を図るほか、臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスが収支均衡するよう、市債発行を抑制し、将来の償還元金を縮減する。		

## 重点改革項目Ⅲ 持続可能な財政運営の確立

取組項目(中項目)	3 地方公営企業などの経営改革	No.	59③			
具体的な取組項目(小項目)	4 その他特別会計の経営改革の取組強化	担当課	財務課			
改革実施項目名称(細項目)	公債管理事業 ・効率的な運営による収支の均衡回復					
現状と課題 (これまでの取組み)	借入時期の見直しや見積合わせの競争性を高める取組みなどにより、低利での借入に努めているが、臨時財政対策債や合併特例債が増加し、今後もしばらくの間、公債費の増加が見込まれる。そのため、より低利での借入を行い、償還利子の縮減に努めるとともに、臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスが収支均衡するよう、市債発行を抑制し、将来の償還元金を縮減することで、公債費の縮減を図る必要がある。					
事業の目標・目的 (考えられる効果)	≪計画期間の目標≫ ・適切な金利での資金調達を行い、償還利子を縮減する。 ・臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスについて、平成28年度から収支均衡するよう、市債発行を抑制し、将来の償還元金を縮減する。					
	≪事業の最終目標≫ 償還利子の縮減や市債発行の抑制により、一般会計からの繰入額の縮減を図る。					
改革実施概要	現状 (平成26年度)	平成29年度		平成30年度		最終目標/ 31年度以降
	取組工程 (具体的な内容)	計画	実績	計画	実績	
指標	・金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を実施	・金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を実施 ・臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスが収支均衡するよう、市債発行を抑制し、将来の償還元金を縮減する	・金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を実施した。 ・H30予算編成では、前年度からの繰越を含んだ決算見込を踏まえ、市債発行の抑制に努めた。	・金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を実施 ・臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスが収支均衡するよう、市債発行を抑制し、将来の償還元金を縮減する	・金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を実施した。 ・H31予算編成では、前年度から多額の繰越が見込まれることから、市債発行の抑制に努めた。	・金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を実施 ・臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスが収支均衡するよう、市債発行を抑制し、将来の償還元金を縮減する



進捗管理	(各年度10月に実施)		平成29年度		平成30年度	
	取組の状況	上半期 (4～9月)	・最適な年限、金額を検討 ・見積合わせの結果、低利での借入を実施 ・予算編成に向けて、費目毎にプライマリーバランスを検証	予定通り 進捗	・最適な年限、金額を検討 ・見積合わせの結果、低利での借入を実施 ・予算編成に向けて、費目毎にプライマリーバランスを検証	予定通り 進捗

年度評価	(年度終了後に実施)		平成29年度		平成30年度	
	取組工程、指標に対する評価		・適切な金利での資金調達を行ったほか、H30予算編成では決算見込においてもプライマリーバランスが黒字となるよう市債発行を抑制し、将来の公債費の縮減が図られた。	B	・適切な金利での資金調達を行ったほか、H31予算編成では前年度から多額の繰越が見込まれることから、市債発行を抑制した。(H31決算見込のプライマリーバランスでは赤字)	B
	課題、今後の方針、改善事項など		財政目標達成に向けて、引き続き市債発行の抑制と公債費の縮減を図る。		学校のエアコン設置など、社会情勢の変化に機動的に対応しながらも、引き続き市債発行の抑制と公債費の縮減を図る。	

計画期間の評価	計画期間の評価			平成31年度以降
	取組工程、指標に対する評価 (指標の適正性等)	適切な金利での資金調達を行い、償還利子の縮減が図られた。 社会情勢の変化に機動的に対応しながら、有利な起債を活用するなど将来の公債費負担縮減を図った。	B	
	課題、今後の方針、改善事項など		引き続き金利動向を注視し、最適な借入方法・時期・期間での借入を行うことで償還利子の縮減を図るほか、臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスが収支均衡するよう、市債発行を抑制し、将来の償還元金を縮減する。	